

日本のモノづくりを支える 九州のメッキ産業

人材育成 環境対策

産学官で連携

基礎産業の一つであるメッキ。日用品、家庭用品、電気製品など身の回りの品から自動車、産業機械などあらゆる産業で技術が生きている。九州では基礎産業の半導体や自動車産業で支える。九州めっき工業組合は産学官の連携で人材育成や環境対策を進め、次代のメッキ産業を指している。

メッキは通信機器やコン端技術の発展に貢献している。コンピューターなどのハイテク。高機能や高精度の追求で技術革新を続け、世界に医療や航空宇宙といった先



絶え間ない技術向上がメッキ業界を支えている



技術開発に力を入れる企業も多い

九州めっき工業組合
山田 登三雄 理事長



中核人材・技術者育成に力

九州経済は全体的に緩やかな回復が続き、生産活動は活発に推移している。自動車は輸出を中心に好調で電子部品

やカーエレクトロニクス関連の仕事が増えた。日本経済の柱である輸出産業メッキは各社が手がける仕事はさまざまに広がっている。また組合員まで厳しい環境のころもある。材料費や輸送コストの上昇など乗り越えなければならぬ課題もある。

産業界ではIoT（モノのインターネット）や人工知能（AI）などがモノづくりを変えていく。メッキ業界も新しい技術への対応が求められる。IoTやAIが広がってもメッキが支えるモノづくりが必要であるとは変わらな



リサイクルには継続して取り組んでいる（リサイクルプラント）



5月16日の総会。九州経済産業局や福岡県からも出席があった



総会であいさつする山田理事長

「めっき技能士」輩出

九州めっき 今年度事業計画

足や原材料費上昇を厳しさもあふことに触れ「みなさんと一緒にがんばりたい」と呼びかけた。来賓あいさつで九州経済産業局地域経済部の最上貴治部長はメッキを「産業を支える基礎技術」と述べ、航空宇宙や医療分野での活躍を期待した。福岡県の岩

能検定に取り組み、1級と2級の「めっき技能士」の輩出を目指す。環境に関しては「めっきリサイクル技術研究会」で金属回収や再資源化を推進する。技能検定には技能検定講習や実技検定試験、学科講習に取り組み、福岡県工業技術センターなどと取り組むリサイクルについては、排水からの再資源化モデル構築を目指し、那珂、ニッケル、スズを回収してい

い。超精密な特別なメッキや新たなメッキが求められるなど、九州のめっき産業は中核人材、技術者の育成に力を入れている。社会に求められる技術の確立や技能伝承を支援していく。これまで連携してきた福岡をはじめ、福岡県工業技術センターや九州大学、九州工業大学、福岡大学、九州医科大学との関係を組合員が学び合い、切磋琢磨し、研究開発に挑戦していく環境をつくるため、これからも努力していく。